

2010年度第1回ファイナンシャル・プランニング技能検定1級実技試験

Part (2010年6月5日)

氏名 _____

設例

Aさん(70歳)は、35歳で独立、現在の甲社を築いた創業者社長である。甲社は伝導機器の卸売業としては地区最大であり、多くの機械メーカーを固定客に持ち安定した経営をしており、今後とも順調な業績が見込まれている。甲社の直前期の年間売上高は86億円、経常利益は5億8,000万円である。現在は、長男が専務として事実上会社を取り仕切っており、Aさんは、そろそろ長男に事業を承継しようと思っているが、顧問税理士に相談したところ、自社株の評価が高く自社株の承継および将来の相続税の納付について心配している。甲社の株式のうち80%をAさんが所有している。

Aさんの家族構成は、下記のとおりであり、長男に自社株を中心とした甲社に関する財産を相続させたいと考えている。二男は大学の教授で、専門分野で高い評価を受け、本人も研究に生きがいを感じており、会社の経営にはまったく関心がない。ただし、最近、自宅建設を計画しており、Aさんは将来の財産分与を視野に入れ、4,000万円程度の支援をしようと考えている。長男と二男は性格も人生観も違い、必ずしも仲がよくないのも心配の一つである。

また、Aさんは余剰資金の運用手段として、知人から紹介された個人向け国債の購入を検討しようと思っているが、内容についてはよくわからない。

現状でのAさんの相続財産は約15.8億円、現時点での相続税の見積額は、一次相続と二次相続を合わせて約6億400万円である。

Aさんの家族構成

Aさん (70歳):	甲社社長	妻 (68歳):
長男 (45歳):	甲社専務取締役・既婚	二男 (42歳):
		大学教授・既婚

甲社の概要

株主構成	: Aさん	160万株 (80%)	:	妻	10万株 (5%)
	: 長男	20万株 (10%)	:	元従業員	10万株 (5%)
資本金	: 100百万円	発行済株式総数	:	200万株	
従業員数	: 85人	株式評価上の会社規模	:	「大会社」	

類似業種比準価額は610円、純資産価額は1,080円である。

Aさんの財産の概要 ...各財産の金額は相続税評価額である

現金・預金	250百万円	
自宅(土地・建物)	70百万円	* 小規模宅地等の評価減適用後
倉庫(土地・建物)	100百万円	* 会社に賃貸
従業員社宅3棟	110百万円	
賃貸マンション1棟(土地・建物)	80百万円	
甲社株式	976百万円	* 現在の評価額
合計	1,586百万円	

検討のポイント

設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。

それらの相談内容・問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。

それらの方策(解決策)のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。

F Pと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

(注) 設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。